

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	高機能シミュレータを用いた臨床判断能力教育の効果				
研究組織	代表者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	林 みよ子
	研究分担者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	山田 紋子
		所属・職名	看護学部・講師	氏名	前野 真由美
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	鈴木 郁美
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	中岡 正昭
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	長谷部 美紀
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	植田 春美
	発表者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	林 みよ子

講演題目
周術期看護における学生の臨床判断能力育成のためのシミュレーション教育の方法
研究の目的、成果及び今後の展望
<p>背景・目的：看護基礎教育におけるシミュレーション教育は学生の問題解決能力を向上させ（Jinkyong ら,2022）、精神運動領域の効果は熟練看護と相関する（Sumeer ら,2023）。一方で、シミュレーション教育だけでは臨床判断や看護実践能力の育成は十分とは言えないという指摘がある（小園ら,2022）。そこで、関連文献の知見から、周術期看護における学生の臨床判断能力を育成するためのシミュレーション教育の方法を明らかにすることである。</p> <p>成果：シミュレーション教育は、実習場面のイメージ化・観察内容の確認（新井ら,2021）、患者の変化の重症度・緊急度のアセスメント（糸川ら,2021）に寄与するとされ、臨地実習の準備状態を高める教育方法であると言える。一方、このような準備された教育は、周術期にある患者の一般的な項目の観察を可能にするが、変化する状況や状態に応じた実践には至らないと指摘する研究も多く、効果を高める工夫が必要であると言える。シナリオ型シミュレーション演習は臨床判断力育成に必要な自己学習行動を促進させ、実習と連動させることで臨床判断力育成が期待できる（山内ら,2015）とされており、協定校である韓国・慶熙大学では、臨地実習期間中に学内でシミュレーション教育を実施し学習効果を上げていることから、学内演習と臨地実習を連動させたシミュレーション教育が効果的であると考えられる。また、シミュレーション教育は、実際に手術を受けた患者の病状や治療が変化する時間的感覚や直接的な反応を得られず臨地実習に変わるものではないが、学生が実際の状況が再現された状況を体験することによって知識を技術に変える機会を与えることができる（織井,2016）という報告、学生間のロールプレイで患者の立場になって考え感じることは、患者の感情に気づくトレーニングとなり、それを言語化することを繰り返すことは学内実習の限界を補う（及川ら,2024）と示唆する報告がある。学内演習でのシミュレーション教育を効果的に実施するためには、実際場面をできるだけ忠実に再現すること、学生が患者体験を追体験すること、学生が追体験や感じたことを言語化することが重要であると言える。さらに、シミュレーション教育をより効果的に実施するためには、デブリーフィング時にポジティブフィードバックをすることが重要であり（山内ら,2015）、まず重要なポイントが達成された点を伝え、次に問題点を明確にして今後の改善点を尋ねること（谷口ら,2012）が必要である。協定校である韓国・慶熙大学でも、シミュレーション教育においては、シナリオもさることながら、デブリーフィングを重要視しており、学生の気づきやそれに基づく判断をいかに言語化させるかが課題であると説明された。</p> <p>今後の展望 先行研究から明らかになった臨地実習と学内演習を連動させたシミュレーション教育と、デブリーフィングを重視したシミュレーション教育のプログラムを作成して実施し、その効果を明確にしたい。</p>